

# 資料館 だより

2026.6 VOL.5

【編集・発行】

周南市民俗資料館

周南市中畷町 15-22

TEL 0834-33-8334

資料館 HP

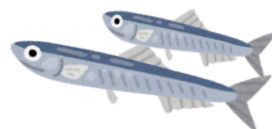


## 今回のテーマ 福川の<sup>ぎょぎょう</sup>漁業

福川の人たちは、目の前に広がる海の利用を思いつき、魚を取って、売ることを仕事にしました。今号では、福川浦(村)でおこなわれた漁業について紹介します。

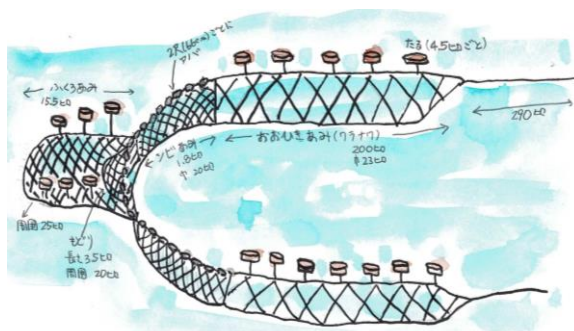
### ～(1)福川浦漁業の歴史～

昔は、漁業といえば福川浦(村)の漁業をさしており、徳山毛利藩から許可された漁場は、東は光市島田川河口から、西は戸田<sup>しろうだに</sup>四郎谷までの間における海域でした。福川浦漁業で、もっとも盛んにおこなわれたのはイワシ漁です。



### ～(2)イワシ網漁(地引網漁)～

春から夏・秋にかけて漁が行われ、その規模は漁船などの数が41艘、漁人は200人前後という大規模なもので、水揚げされるイワシも大量でした。



▲<sup>じびきあみ</sup>地引網 2隻の網船を竹島の岩場にロープで固定し、船のろくろを6人で回して網を引き上げます。

▲網の上に船を持っていき、ムラムギ(漁労長)が全体の指揮をします



### ～(3)イワシ干場と漁業関係者～

水揚げされたイワシは直ちに海浜の煮干場(竹島、仙島、温田の浜など)に運ばれ、大釜で半茹でにした後、海浜のムシロの上に広げて天日干しを行い、煮干<sup>にぼし</sup>(いりこ)に仕上げました。

大正10年当時、村の総人口6,396人(老若男女、子供を含めすべて)に対して、漁や干場など漁業に関する仕事をしていたのが943人(全体の約15%)、漁船はぜんぶで303隻ありました！このことから、漁業は福川の産業に欠かせない存在であったことがわかります。

遊びにきてね

【周南市民俗資料館】 〒746-0052 周南市中畷町 15-22

○ 開館日時 月・水・金・第1、第3土曜日(※祝日・年末年始を除く) 9:30～16:30

○ その他 入館料無料、駐車場有(15台程度)

